



《伊勢キン》完全体は 紙幣搬送も次世代仕様



店舗の高いところを通る、紙幣搬送路。鏡面デザインのため見た目にも違和感がない。

《名古屋駅柳橋店》の 実績を高く評価

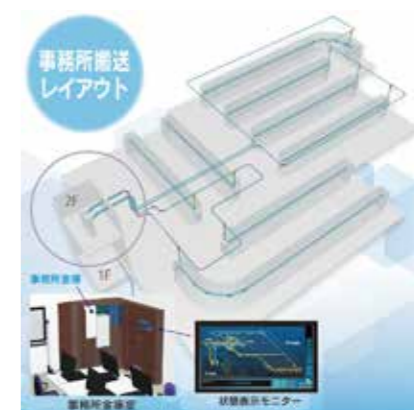
伊勢キンの愛称で地域に親しまれる三重県伊勢市の《キング観光サウザンド伊勢店》。2025年7月の大幅リニューアルで総台数を1000台規模へ増床し、店名に「サウザンド」を冠す完全体へと進化した。

このタイミングにあわせ、同店ではエース電研の次世代紙幣搬送システム『ビルストリーム』の事務所搬送タイプを導入した。『ビルストリーム』は、空気を

利用してユニットに入金された紙幣を島端の金庫へ搬送し、さらに事務所やフロア内の金庫室へ一括集約できるシステム。同店では事務所搬送を採用し、セキュリティの向上と効率化の両立を図っている。

石橋正樹シニアマネージャー

《キング観光サウザンド伊勢店》が増床を機に、紙幣回収の効率化とセキュリティ強化を同時に実現した。



は採用理由に《キング観光サウザンド名古屋駅柳橋店》での実績を挙げ、「人的負担の軽減、回収の効率化、セキュリティの全において高い水準で運用できると評価しました」と話す。

改装前の《伊勢店》では営業中と閉店後の1日2回、特別事務員や役職者が各島の金庫から紙幣を回収していたが、現在は閉店後の精算機の紙幣回収のみ。

江草勇樹マネージャーは、「セキュリティ面の向上はもちろん、

金銭処理にかかる時間は、トータルで1時間弱は短縮できています」と語る。金銭回収を担っていた特別事務員は人手の必要な他店舗へ移るなど、人員配置の最適化にも寄与している。

朝イチの入金集中も トラブルなしの安心感

フロア内の紙幣搬送路はR島や壁島、柱島などにも対応しており、空中を紙幣が搬送されているとは全く感じさせない設計とデザインを実現している。

石橋シニアマネージャーは、「朝イチの大勢のお客様が一齐入金する際も全く支障なく運用できるのはすごいと思います」と信頼を寄せる。

1000台規模の運用を次世代紙幣搬送で支える同店。石橋シニアマネージャーは、「今後は浮いた時間や人的な労力を営業面に振り向けていきたい」と、設備投資による効率化を基盤に、より魅力ある店舗づくりへと注力していく構えだ。

業界では近年、キャッシュレ

スの話題が取り沙汰されているが、仮に今後導入が進んだとしても、その利用は限定的にとどまる可能性が高い。紙幣の取り扱いには引き続き重要な業務として残る中、本設備は業務効率化とセキュリティの両面で大きく貢献していくことになりそうだ。



石橋シニアマネージャー(左)と江草マネージャー。



《キング観光サウザンド伊勢店》
三重県伊勢市西豊浜町大字上字出雲174-6
総台数1002台(P475台、S527台)



2階の事務所金庫室。同店ではフロアの紙幣搬送路を4つに分けており、計4台の金庫を設置している。



ユニットに入金された紙幣は島端の中継金庫を経て、2階の事務所金庫に搬送される仕組み。万が一のトラブルでも中継金庫に紙幣を貯留するため、営業に支障をきたさない。



搬送の稼働状況を確認できる15.6インチモニターを標準装備。